

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

英國における芝の平地競馬は現在シーズンオフで、2019年のシーズンが開幕するまでまだ2か月以上待たなくてはならないが、春の3歳クラシックを巡る売り市場は、冬のこの時期もホットに動き続いている。

5月4日にユーマーケットで行われるG1一千ギニー（芝8F）も、6月1日にエプソムで行われるG1ダービー（芝12F6Y）も、ジョン・ゴスデン厩舎のトゥーダーホット（牡3、父ドゥバウイ）が抜けた1番人気に支持されているが、ここでは、多くのブックメーカーがダービーの前売りでトゥーダーホットに次ぐ2番人気に推しているアンソニー・ヴァンダイク（牡3、父ガリレオ）をご紹介したい。同馬自身は愛国産だが、母ビリーヴンサクシードは豪州産で、祖母アーチティックドリフトは北米産という、いささか異色の牝系を背景に持つのがアンソニー・ヴァンダイクだ。

しかも、アンソニー・ヴァンダイクはクールモアの所有馬であるのに対し、祖母のアーチティックドリフトはクールモアにとって宿命のライバルであるゴドルフィンの所有馬であったという、いわくつきの過去を背負った馬なのである。

G1アラバマS（d10F）など2つのG1を制したノヴェンバースノウの5番仔で、01年のキンランンド9月1歳市場に上場

されたところ、シェイク・モハメドの代理人に60万ドルで購買されたのがアーチティックドリフトだ。3戦して未勝利に終わつたアーチティックドリフトは、シェイク・モハメドの生産組織ダーレーの所有馬として豪州で繁殖入りし、エクシードアンドエクセルを交配されて05年10月に生まれた初仔が、ビリーヴンサクシードである。ちなみに、ビリーヴンサクシードの5歳年下の全弟にあたるのが、G2マッキウエンS（芝1000m）を含む2重賞を制し、現在は種牡馬として繁養されているクロシオだ。

クロシオがシェイク・モハメドの所有馬として現役生活を送った一方、ビリーヴンサクシードは07年1月に開催されたマジックミリオンズ・ゴールドコースト1歳市場に上場され、調教師マーク・カヴァナーに30万豪ドルで購買されている。すなわち、この段階でシェイク・モハメドの傘下からは離脱したわけである。調教師夫人エイダン・オブライエン厩舎の所属馬となつた同馬は、2歳時の昨年に7戦し、G2フューチュリティS（芝7F）、G3タイロスS（芝7F）という2重賞を制覇。G1ナショナルS（芝7F）2着、G1デューハーストS（芝7F）3着などの成績を残した。

牝系はスピードの宝庫だが、ガリレオ産駒ゆえ、二千ギニーよりはダービーの前売りで高く評価されているのがアンソニーヴァンダイクだ。数奇な血脈を背景に持つ同馬が、3歳を迎えてどのような化け方をするか、おおいに注目されている。

て5つの重賞を制する大活躍を見せる」とになったパフォーミングだった。

そして、14年9月にゴールドコーストで開催された繁殖牝馬セールに、ストリーリーヴンサクシードを、セール最高値となる110万豪ドルで購買したのが、クリーヴィアスタッフのトム・マグナーだった。ルモアスタッフのトム・マグナーだったのである。

クールモアの所有となつたビリーヴンサクシードは、14年10月にストリートクリーの仔を豪州で出産した後、クールモアの本拠地である愛国に輸送され、ガリレオを交配されて16年5月に産んだ北半球における初めての産駒が、アンソニーヴァンダイクであつた。

エイダン・オブライエン厩舎の所属馬となつた同馬は、2歳時の昨年に7戦し、G2フューチュリティS（芝7F）、G3タイロスS（芝7F）という2重賞を制覇。G1ナショナルS（芝7F）2着、G1デューハーストS（芝7F）3着などの成績を残した。

牝系はスピードの宝庫だが、ガリレオ産駒ゆえ、二千ギニーよりはダービーの前売りで高く評価されているのがアンソニーヴァンダイクだ。数奇な血脈を背景に持つ同馬が、3歳を迎えてどのような化け方をするか、おおいに注目されている。